

平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果について

教学指導課

- 小学校については、算数Aが全国平均を僅かに下回ったものの、他の教科・科目は全国平均を上回り、概ね良好な結果となりました。
- 中学校については、国語Aは全国平均を上回り、国語B、数学AB、理科は全国平均を下回ったものの、差はすべて1ポイント以内に収まり、回復の兆しが見え始めています。
- 小、中学校いずれにおいても一定の成果は上がっていると考えますが、さらなる学力の定着・向上に向け、取組の充実を図るとともに、学力向上外部検証委員会を設置し、来年度以降の施策の立案に生かしてまいります。

1 実施状況

学 校	実施学校数	児童（小6）・生徒（中3）数
公立小学校	367 校（内特別支援学校 3 校）	18,553 人
公立中学校	191 校（内特別支援学校 5 校）	18,550 人

※ 対象となる児童生徒のいない小学校 2 校、インフルエンザによる学級閉鎖で実施日に実施できなかった小学校 1 校を除く。

2 長野県と全国平均正答率の比較（公立）

学 校	年度 教科	平成 27 年度			平成 26 年度		
		全国	長野県	全国との差	全国	長野県	全国との差
小 学 校	国語 A	70.0 (9.8/14)	70.4 (9.9/14)	+0.4	72.9 (10.9/15)	72.6 (10.9/15)	-0.3
	国語 B	65.4 (5.9/9)	66.4 (6.0/9)	+1.0	55.5 (5.5/10)	57.0 (5.7/10)	+1.5
	算数 A	75.2 (12.0/16)	75.0 (12.0/16)	-0.2	78.1 (13.3/17)	79.1 (13.5/17)	+1.0
	算数 B	45.0 (5.9/13)	45.4 (5.9/13)	+0.4	58.2 (7.6/13)	59.0 (7.7/13)	+0.8
	理科	60.8 (14.6/24)	61.3 (14.7/24)	+0.5			
中 学 校	国語 A	75.8 (25.0/33)	76.2 (25.2/33)	+0.4	79.4 (25.4/32)	79.7 (25.5/32)	+0.3
	国語 B	65.8 (5.9/9)	65.0 (5.9/9)	-0.8	51.0 (4.6/9)	49.4 (4.4/9)	-1.6
	数学 A	64.4 (23.2/36)	63.5 (22.9/36)	-0.9	67.4 (24.3/36)	67.2 (24.2/36)	-0.2
	数学 B	41.6 (6.2/15)	40.6 (6.1/15)	-1.0	59.8 (9.0/15)	58.1 (8.7/15)	-1.7
	理科	53.0 (13.3/25)	52.8 (13.2/25)	-0.2			

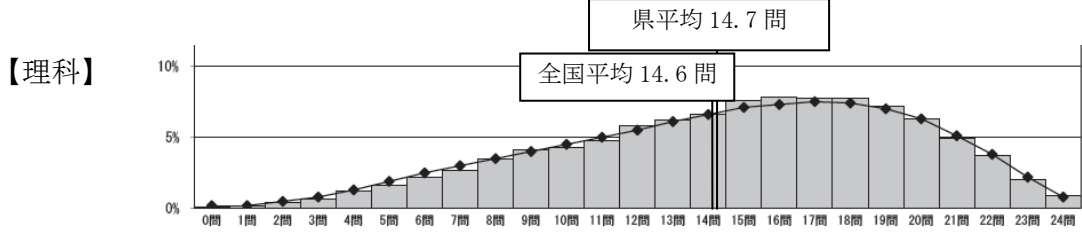
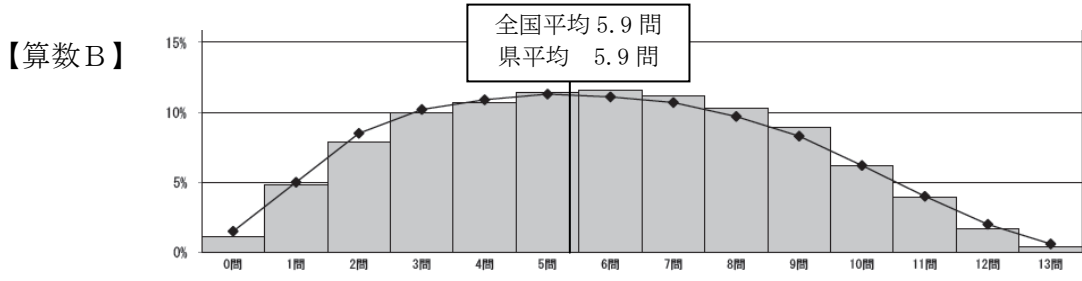
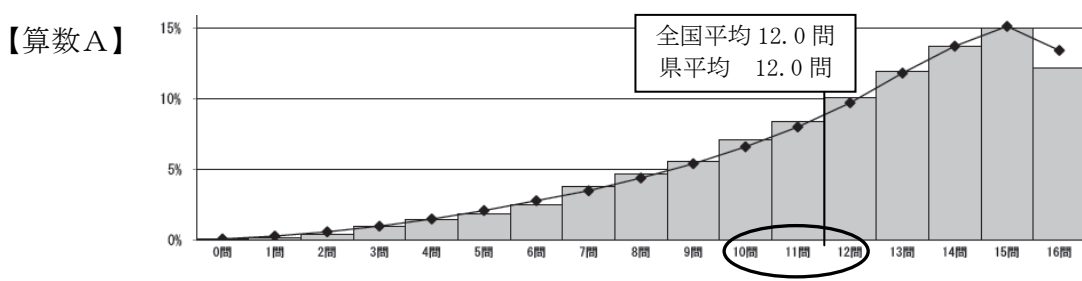
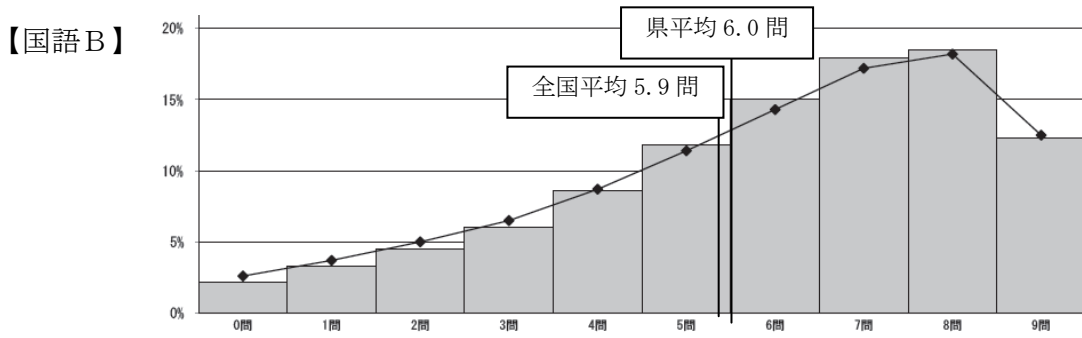
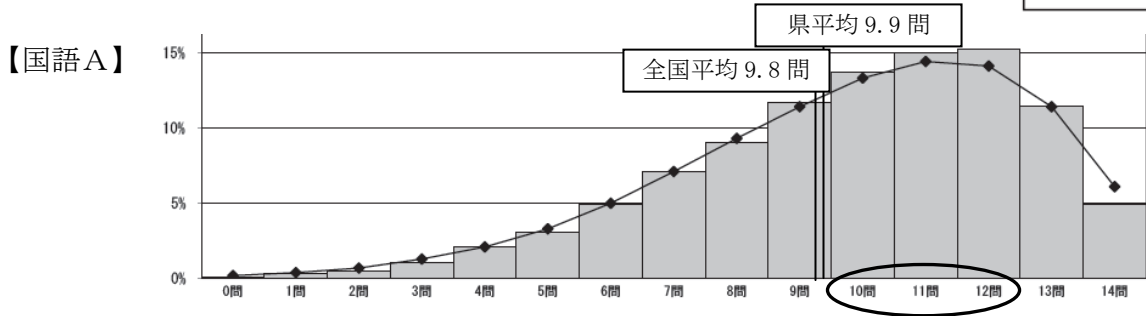
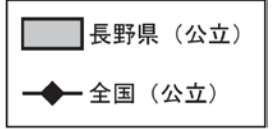
上段：平均正答率 下段：(平均正答数/設定問題数)

3 長野県と全国（公立）との正答数分布グラフの比較

[小学校]

どの教科・科目も正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向である。国語Aで全問正答（14問）の児童の割合がやや少なく、10問から12問の児童の割合がやや多く、算数Aでは、全問正答（16問）の児童の割合がやや少なく、10問から12問の児童の割合がやや多くなっている。

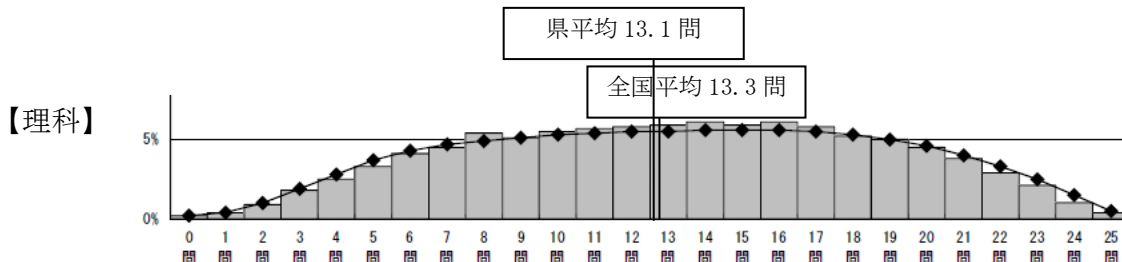
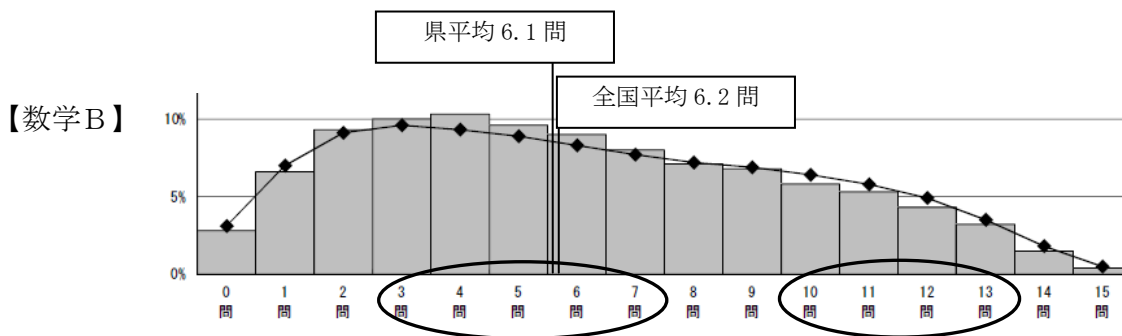
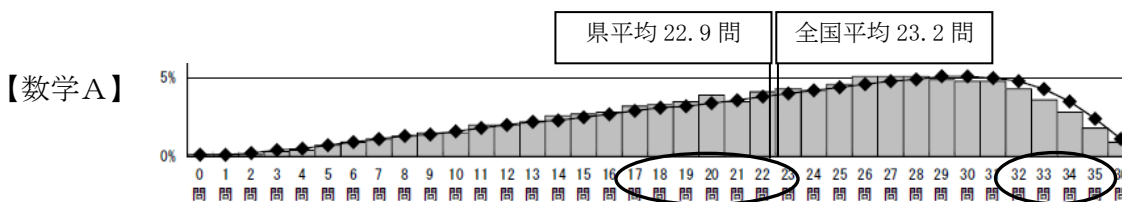
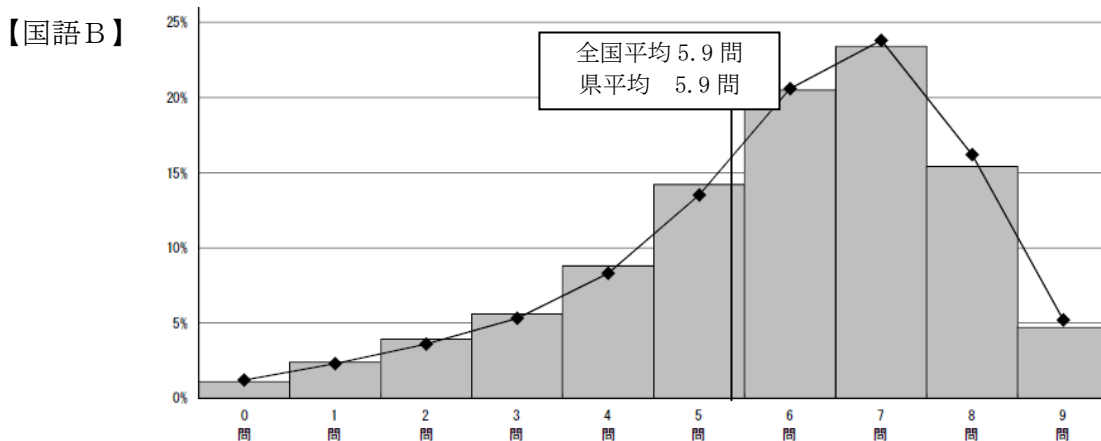
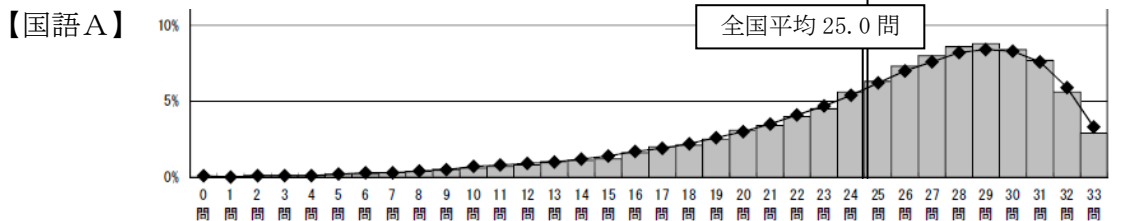
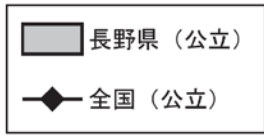
[正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）]



[中学校]

正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向である。数学Aで正答数が32問から35問の生徒の割合がやや少なく、17問から23問の生徒の割合がやや多くなっている。数学Bでは、正答数が10問から13問の生徒の割合が少なく、3問から7問の生徒の割合が多くなっている。

[正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)]



4 質問紙調査の回答状況

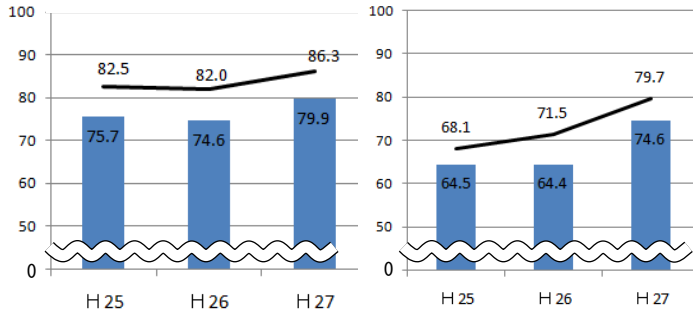
目標を示すことや振り返る活動、話し合う活動や考えを書く活動など 授業改善に関しては肯定的な回答が増加している。「総合的な学習の時間」で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む割合は、増加しているものの、依然全国より低い。計画を立てて家庭学習に取り組む割合は増加している。

(当てはまる、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答)

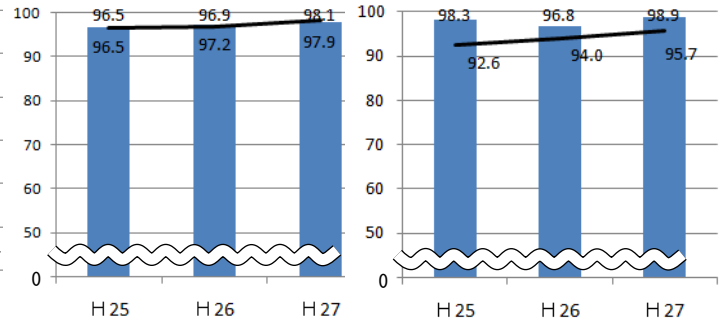
《左:小学校 右:中学校》

長野県
全国

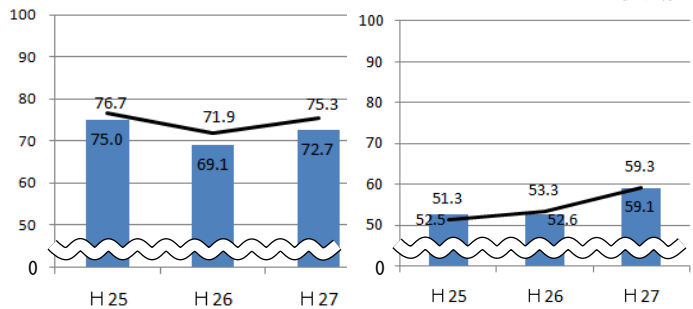
①授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う
(児童生徒質問紙)



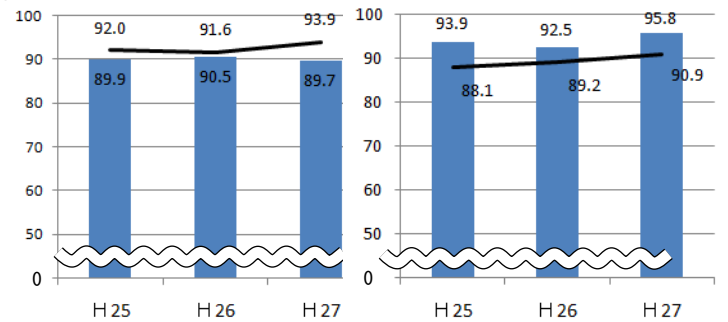
②授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れた(学校質問紙)



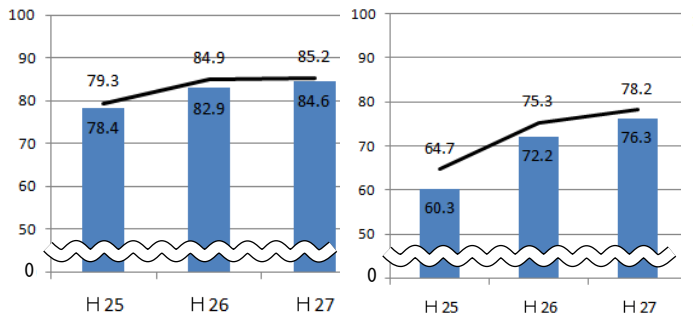
③授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う
(児童生徒質問紙)



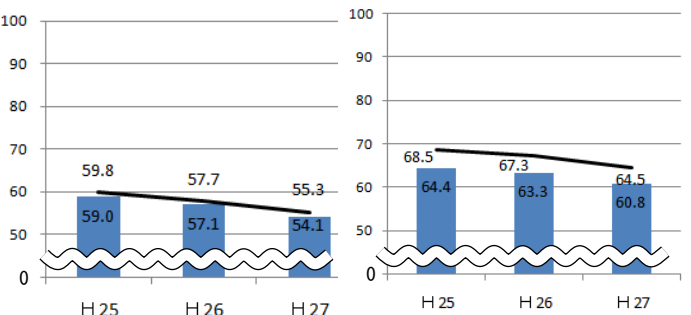
④授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた(学校質問紙)



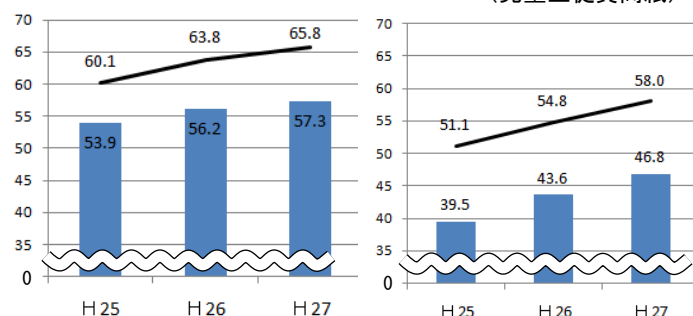
⑤授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う(児童生徒質問紙)



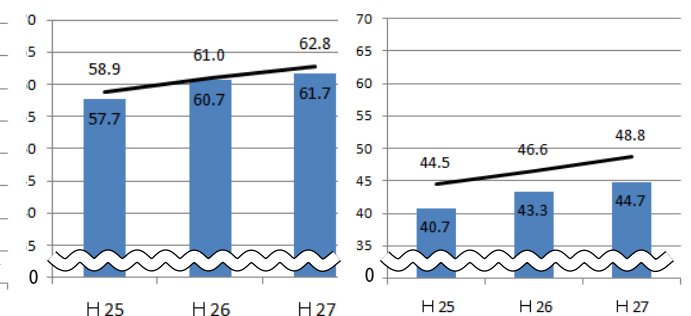
⑥授業で、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う(児童生徒質問紙)



⑦「総合的な学習の時間」で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる
(児童生徒質問紙)



⑧家で、自分で計画を立てて勉強をしている
(児童生徒質問紙)



5 今後の取組

(1) H27 年度後半の取組

① 学力向上ミーティングの実施（9月下旬～10月下旬）

- ・全国学力・学習状況調査及びP調査について、各学校における結果分析や改善等を進めるために、教育事務所ごとに各学校の教頭・研究主任等を対象に研修会を実施

② 「学力向上フォーラムながの」の開催（H28年1月12日 キッセイ文化ホール）

- ・県内全小中学校及び市町村教育委員会、保護者、地域が一体となって、長野県の児童生徒の学力向上を目指す機運を高める

③ 指導資料の配信（9月から配信予定）

- ・県全体の結果や、成果を上げている学校の取組をリーフレットにまとめ、小中学校の全教職員に配布し、授業改善に生かすよう指導
- ・算数・数学の指導改善のための資料を作成し、指導主事の学校訪問の際に活用

④ 学力向上に関わる学校の取組に対する支援

- ・学力向上に関わる非常勤講師配置校22校の結果を分析し、学力向上加配の有効性について検証
- ・全国学力・学習状況調査や県独自の実態調査を組み込んだ、各学校における年間の学力向上サイクルを再構築

⑤ 市町村教育委員会との連携

- ・希望する市町村教育委員会を訪問し、結果分析のサポートを行うとともに、市町村教育委員会がそれぞれの課題を明確にし、改善に向けた取組が進むよう支援

(2) 来年度以降の施策に生かすための取組

① 学力向上外部検証委員会の設置

- ・学識経験者（3名）、他県教育委員会（1名）、市町村教育委員会（1名）、保護者（2名）、学校関係者（5名）で構成する検証委員会を設置し、学力向上のための県教委の取組についての評価と改善の方向を検討

② 学力向上外部検証委員会の提言を受けた施策の立案

《外部検証委員会名簿》

区分	氏名	所属等
学識経験者	宮崎 樹夫	信州大学学術研究院教育学系 教授
	西 一夫	信州大学学術研究院教育学系 教授
	齋藤 嘉克	学校法人 信学会 教育振興部 学習企画課 係長
	前田 倍成	石川県教育委員会学校指導課 課長補佐
市町村教育委員会	脇坂 隆夫	富士見町教育委員会 教育長
高等学校	根橋 悦子	東御清翔高等学校 教頭
校長	松木 智子	滋野小学校 校長
	北村 雅	白馬村立白馬中学校 校長
教員	桂本 久美子	須坂市立小山小学校 教諭
	目黒 哲郎	飯綱町立飯綱中学校 教諭
PTA	浅輪 佳代子	松本市立田川小学校 P T A
	木下 まなみ	長野市立裾花中学校 P T A